

試行・検証等のテーマ

「体験活動の質を高めるためのデジタル技術の活用」「地域や企業、教育機関等、多様な主体が連携して行う体験活動」「個人だけでなく、チームとしての体験、学び、課題の発見・解決」「自然体験を通じたSDGsの学び」

背景 ・ 課題

- ①デジタルネイティブの子どもたちは、デジタル技術への適応性、親和性が高い反面、いじめのツールになったり犯罪に巻き込まれたりなどの課題がある。
- ②地域の自然体験を提供する団体等との協働が少なく、子どもたちに体験の機会を提供できていない。
- ③学校教育と自然体験教育が乖離しており、チームで行うアクティブラーニングの機会を提供できていない。
- ④SDGsについて実感をもった学びや体験の機会が提供できていない。

事業の ねらい

富士山の自然の中でのアクティビティを通して、自然の魅力、課題を体験を通して学ぶ。
富士山に限らず、山と海がつながっていること、それらが自分自身の生活にも密接に関係していることを学び、課題の発見と解決策を考え、日常生活で実践できるようにする。
チームでの体験、学びを通して、参加者の仲間を作る力、仲間との交流を通して、参加者自身、チームとしての自己肯定感を高める。

事業内容

【プログラム運営体制】

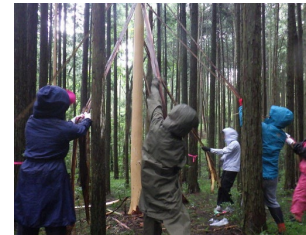
- ・プログラムディレクター(責任者):金井 淳(富士山YMCA)
- ・サポートディレクター:飯野 汐音(横浜北YMCA)、村田 彰宏(富士山YMCA)
- ・安全対策本部:横浜YMCA本部事務局

【連携団体】

- ・富士ワイズメンズクラブ(海岸清掃) ・NPO法人森の蘇り(日本・世界の人工林の学び、皮むき間伐体験)
- ・杵塚養鱒場(富士山のニジマス養殖についての学び、ニジマスつかみ取り)

【内容】

- ・プロジェクトアドベンチャー:チーム作り、ふりかえりを体験し、チームでの体験、話し合い、ふりかえりの素地をつくった。
- ・自然林ハイキング:富士山2合目西臼塚をハイキングし、自然林の特徴を学んだ。
- ・海岸清掃:海岸に流れつくゴミの種類を調べ、どこからゴミが来ているのか、自然に還るにはどれだけの時間がかかるのか調べた。
- ・ニジマスつかみ取り:富士山麓のニジマス養殖について学び、実際にニジマスのつかみ取りをして、味わった。
- ・アップサイクルの学び:アップサイクルについて学び、自分たちで調査し、クイズを作り、クイズ大会をした。
- ・皮むき間伐体験:日本・世界の人工林の現状を学び、持続可能な間伐方法である「皮むき間伐」を体験した。
- ・アクションプラン発表:チームでの学び、体験、ふりかえりを通して考えたSDGsに関するアクションプランを発表した。



成果

様々な自然体験・学び、同年代との仲間たちとの話し合い、ふりかえりを通して参加者それぞれがアクションプランを発表した。その中では、「プラスチックを使う回数を減らす」、「ゴミ捨てしない」といった「自然」に関わるものだけでなく、「肌や見た目を気にしないようにする」、「悪口を言わない」、「他人に目を向ける」といった「人」に関わるものも提示されたところに、キャンプという共同生活の中で「グループワーク」を用いた体験・学びであったからこそその効果があったのではないかと。また、子どもたちの発言、行動、アクションプランを通して、指導者である大人も学ばされるものが多かった。参加者からは「フードロスが減らす買い物をしたり、自分の食べ物を残さないようにしたりしている。」、「誰一人取り残さないことについて皆で考えたものを常に意識しながら、生活をするように心掛けている。」、保護者からは「自分のことを自分でやるようになった。」、「周りへの気遣いができるようになった。」といった声がアンケートに寄せられた。

今後の 展開

静岡・神奈川・東京の近隣都県だけでなく、沖縄県、さらには海外からの参加者もあり、次年度以降も継続的に同様のテーマのプログラムを実施し、より広範囲な地域から子どもたちが参加し、さらに、指導者も日本人だけでなく、海外の指導者にも携わってもらい、より様々な価値観に触れる機会となるほうが、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念の学びが深まるのではないかと。このような企画が5年、10年と続くと、今回の参加者が指導者として参加できるようになり、SDGsを実現させる担い手、リーダーとして活躍もraitたい。